

シリーズ・編集部座談会《こんな話&あんな話》

買って住みたい街・借りて住みたい街ランキングの変遷が物語るモノイメージの良さ、便利さ、暮らしやすさなどを天秤にかける現代人①

【出席者＝本紙編集部一同】

☆上下動が激しい住みたい街ランキングの読み方

司会者 本紙巻頭コラム「白紙余談」でも3週前に紹介していたけど、LIFULL HOMESが2月9日付けで発表した「買って住みたい街（最寄り駅）ランキング2021年販」と「借りて住みたい街（最寄り駅）ランキング2021年販」があちこちで話題になっているね。

記者C そうですね。けっこう、いろいろなサイトや新聞などでも引用されていました。それだけ大きな話題になったのは、都内の人気住宅地のなかに、本厚木（買って住みたい街3位、借りて住みたい街1位）や八王子（買って住みたい街6位、借りて住みたい街4位）、柏（買って住みたい街7位、借りて住みたい街9位）、大宮（買って住みたい街15位、借りて住みたい街2位）など、近郊の街が上位にランキングされていたからでしょう。

記者A そういう面を意識しつつ、急激にランキングを上げた街をみると、買って住みたい街では今回2位の白銀高輪（17ランクアップ）、8位の目黒（13ランクアップ）、11位の橋本（31ランクアップ）、13位の千葉（49ランクアップ）、14位の平塚（25ランクアップ）、16位の朝霞（13ランクアップ）、19位の牛込柳町（191ランクアップ）の躍進ぶりが、とても目立っています。

記者D 同様に、借りて住んでみたい街ランキングだと、17位の川口が15ランクアップしているのが目立ちますよね。買って住みたい街はジャンプアップした街がたくさんあるのに対し、借りて住みたい街は、上位20位までを見る限り、川口しかないのが、面白い。

記者B ただ、いずれのランキングも「街そのもの」のランキングというより、「街の最寄り駅」のランキングだということは、留意する必要があるそうですね。最寄り駅と住宅地は表裏一体ではあるのだけど。

司会者 それはいい指摘だね。別の言い方をすれば、昔からいい住宅地とされていた街でも、最寄り駅の人気はそれほどでもないということが、ランキングに反映することもあるわけだ。

記者A それはあるでしょう。たとえば一昔前までなら考えられなかったと思いますが、買って住みたい街の上位常連だった恵比寿が7ランクダウンして今回は9位に甘んじています。

同じく借りて住みたい街ランキングでは、かつての上位常連組の三軒茶屋が10ランクダウンの16位に下落しています。

司会者 なるほどなあ。半面、あまりにも定番の高級住宅地で地価も高そうな白銀高輪が、買って住みたい街で17ランクアップの2位に浮上している。同様に目黒も13ランクアップの8位だよ。これらの街が急に地価を下げたわけじゃないだろうし、不思議な感じがする。

記者D 目黒や白銀高輪などは、交通の便の良さは以前からのことで、何かが大きく変わったという印象はありませんしね。

記者B 逆にいえば、橋本や千葉、平塚などがジャンプアップするのは、理解しやすい。都内より地価が安く、交通至便で、最近駅周辺の再開発が進んで買い物もしやすくなったというような、分かりやすい理由がいくつもあるからね。

司会者 牛込柳町の191ランクアップというのは、凄いねえ（笑）。前は圏外もいいとこだっただろうに。

記者A そうですね。しかし、牛込柳町は人気の神楽坂に近くて、なおかつ、ちょっと外れるので神楽坂界限にしては地価に割安感があるということなのかもしれません。神楽坂に住んでいるというふうに、周囲にいてもバチは当たらない距離ということかも!?